

令和3年度第6回市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日 時】 令和3年4月17日（土） 15時50分 ～ 16時50分
【場 所】 吉部ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者（5名） 夢ゆめクラブ吉部の郷代表 : 大田 壮助 吉部地区自治会連合会会長 : 杉本 繁雄 宇部保護区保護司会保護司 : 鶴山 景子 吉部地区コミュニティ推進協議会会長 : 野村 清風 民生委員児童委員協議会主任児童委員 : 山本 良美 ○政策広報室長 ○総合戦略局 ○事務局（広報広聴課、秘書課）
【概 要】 1 開会 2 参加者自己紹介 3 市長あいさつ 4 意見交換・懇談 5 閉会
【意見交換・懇談】
○高齢化によるマンパワー不足問題について ○自治会のあり方について 【夢ゆめクラブ吉部の郷代表】 ・地域支援員の密着したサポートがありがたい。継続してほしい。 ・人口減少の中で自治会の役員が不足し、1人で10以上もの役職を担っている。何か対策はないか。 ・新型コロナワクチン接種で、インターネットなどに対応できていない独居の老人が不安に思っている。お年寄りをサポート、フォローする仕組みがほしい。 【自治会連合会会長】 ・自治会が弱体化し、機能していない。 ・隣接する自治会において、自治会の合併などの住民意向調査の実施を提案する。 【市長】 ・自治会の再編の問題は、他地区でも同様に起こっている。今の時代にあった、自治会のあり方、地区の中での自治会の再編を、地域の皆様の声を聴きながら検討したい。 ・地区の役職についても再考したい。

- ・各地区で作られている地域計画については、市もしっかりと支援していく。
- ・新型コロナワクチンのクーポン券の送付では、チラシがたくさん同封されていてわかりにくいという声があった。
- ・接種を希望される皆さんが、接種しやすい環境整備に努める。

○農業経営の問題について

【自治会連合会会長】

- ・農業を守るため、荒廃地を減らしたいと頑張っている。
- ・個人で農業をすることが厳しいことから、農地を集約して法人化することが求められているが、収穫した米の乾燥調製や販売をどうするのが問題になり話が進まない。
- ・乾燥調製工程が自前でできれば、儲かるシステムができると思うが、国の乾燥調製施設の整備の助成金の制度が4、5年前に廃止された。復活してほしい。
- ・農業で儲かることができれば、後継者が育つと考える。

【市長】

- ・今年度から宇部市全体での農林水産業振興計画の策定に取り組む。例えば、農業であれば、農業だけで子育てができ、安定して生活が送れる収入を確保できるようにしたいと考えている。
- ・売れるものをつくるだけではなく、物流、販路までを考えた計画を策定したい。外部のアドバイザーにも入ってもらい、地域と連携して取り組みたい。
- ・国の「強い農業担い手づくり総合支援交付金」という制度がある。市の担当課でも、検討等のお手伝いをさせていただきたい。
- ・個人での農業経営は難しい時代になっている。北部6地区で連携して同じ作物を大量につくって、物流、販路を確保していくなどできないか、地域の方々とともに取り組んでいければと考えている。

○地域の交通問題（通学、デマンドバス）

【保護司会保護司】

- ・バスや自動車の無人運転の実証実験等があれば、モデル地区にしてほしい。
- ・高校生の通学に係る費用について、特に、山陽小野田市にある高校に通う生徒の負担が大きい。軽減する方法はないか。
- ・デマンドバスの利用方法がわかりにくく、不便さを感じている高齢者が多いと思う。

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・デマンドバスについては、活用方法の周知が足りないのではないかと。

【市長】

- ・山陽小野田市方面への通学バスの費用負担については、山陽小野田市長と意見交換をする必要がある。
- ・デマンドバスについては、予約がとりやすく、気軽に利用できるにはどうしたらよいか検討したい。地域の方からもご意見を聴かせていただきたい。説明会を開催したほ

うがよいとも考えている。

○市街地・過疎地の交流拡大について

【保護司会保護司】

- ・旧吉部小校舎で「うべの里生徒会」のイベントが開催されているが、コロナの影響で思うように開催できないようで寂しく思う。
- ・吉部小では、地域の人たちが学校行事を積極的に支援している。小規模校ではあるが、特色ある授業が行われていると思う。
- ・これまで、地域に住宅が増えたら良いと思っていたが、若い世代は、市街地にある住居と心地よい田舎との両方を自由に行き来できる環境を望んでいるようだ。程よい距離にあるのが吉部である、そこが良いところなのかと思っている。

【市長】

- ・市街地からも吉部が好きな人たちが集まり、地域に関わる人、市街地と田舎とのダブルスタイルが楽しめる、交流人口を増やしていけるような施策を進めていきたい。

○北部地域のより充実したネットワークの取り組みについて

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・宇部市が過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の過疎地域の指定を外れるとのことだが、大きな影響を受けると思われる北部6地区に対し、市はどのような対応を考えているのか。
- ・北部6地区が集まって課題等を話し合うことはできないか。
- ・過疎だからできることに真剣に取り組んでいく必要がある。市にもアドバイスや支援をお願いしたい。

【市長】

- ・北部6地区の若い人たちが、「北翔六星」という会を立ち上げ、地域を盛り上げる活動に取り組んでいる。その会の人たちに意見を聴かせてもらいたいと思っている。
- ・他市等の先進事例を参考しながら、北部地域で連携して地域を盛り上げていけないか、北部6地区での協議会についても検討したい。

○少子高齢化・人口減少について

【民生委員児童委員】

- ・少子高齢化、人口減少が一番の課題である。空き家、耕作放棄地、独居老人が増加している。
- ・若い人は吉部住宅団地にいるだけで、他の自治会には数えるほどしかいない状況。
- ・小学校は完全複式学級であり、万倉、吉部の子どもたちの人数の減り方から、この先どうなるのか、保護者は不安を感じている。
- ・地域の人はとても優しく、子育てにもってこいの地区である。空き家バンクなどの情報発信をしっかりとしてもらい、若い世代を吉部に呼び込んでもらいたい。

【市長】

- ・小学校校区の再編については、今年度から検討を進めていくが、重要なのは、子どもたちにとって最上の教育環境を整えることである。コストありきの再編は考えていない。
- ・内閣府の調査では、東京 23 区に住む若い人の半数以上が、地方に引っ越したいという結果がでている。コロナ禍で、今、地方で暮らしながら東京での仕事ができるようになってきた。これをチャンスととらえ、市でも東京から働く人たちを迎え入れる施策を展開していく。
- ・現在市街地では、お試し移住ができる施設があるが、北部地域でも古民家をリノベーションするなどして、移住体験ができるような環境を整えたい。
- ・移住に繋げるためには、北部地域において農業で稼げるようにしていくことが重要であると思う。

○空き家対応の市の積極的なアプローチについて

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・空き家に入ってもらうためには、家財などをそのまま残した状態にしないなど、家主側の対応も必要ではないか。その対策などについて市にも協力をお願いしたい。

【市長】

- ・空き家バンクの登録数がなかなか増えていない。自分の住まいの将来の状況について考えることはしないからではと思う。地域の皆様から情報やご意見をお寄せいただきながら、対応していきたい。

○その他

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・島根県の隠岐の島では、都会から移住者が増えている。その理由について、市で調べてもらいたい。

【市長】

- ・隠岐の島に人が集まっている理由は「教育」である。
- ・デジタル化が進み、昔ほど教育の地域格差はなくなっていると思う。今後、ICT を活用し、授業もさまざまな形態をとることが可能になると思う。北部地域の豊かな自然、温かい地域のなかで教育を受けさせたいという親御さんも増えていくかもしれない。

【市長】

- ・地域の良さ、強み、そして課題を共有できた。きちんと整理する。
- ・自治会の再編は、地域の皆さんと丁寧に議論しながら一緒に進めていきたいと思う。地域の皆さんからも引き続き意見をいただきたい。